

福井市水道事業ビジョン 2020「R6 中間見直し版」の概要について



第1章 中間見直しにあたって (P1)

中間見直しの趣旨・・・今年度 (R6) に計画期間 (R2～R10) の中間点を迎えたことから、策定後の事業環境の変化に対応するため、中間見直しを実施する
 中間見直しの概要・・・ 計画前期における施策の進捗状況評価、 現行ビジョンのうち、「施策と具体的な取組」と「投資・財政計画」の改訂

第2章 計画前期における施策の進捗状況評価 (P2～P11)

全17指標の進捗状況評価を、右記のように実施している
 (評価の説明や各評価の該当指標は下記のとおり)

- ... R10 目標値を達成しており、
 今後も達成する見込みが高い **指標**
- ... R10 目標値の達成に向けて、
 順調に推移している **指標**
- ... R10 目標値の達成が困難 **指標**

(単位: 項目)

PI 番号	業務指標 (PI)	現況値			目標値		
		2018(H30)	2024(R6)	2028(R10)	2018(H30)	2024(R6)	2028(R10)
A201	原水水質監視度	177	177	177	177	177	177

※原水水質監視度 = 原水水質監視項目数

【説明】 1年間に行う水質検査の項目数 (=水質管理の水準を表す)
 【目標】 現況値 (177成分の検査) の維持を目指す

【進捗状況と達成度評価】

H30	R2	R3	R4	R5
177	177	179	179	179

R3以降は2成分 (PFOS・PFOA) の検査を追加実施

評価	コメント
◎	・目標値達成しており、今後も同様に推移する見込み



(単位: %)

PI 番号	業務指標 (PI)	現況値			目標値		
		2018(H30)	2024(R6)	2028(R10)	2018(H30)	2024(R6)	2028(R10)
B602	浄水施設の耐震化率	8.6	8.6	91.5	8.6	8.6	91.5

※浄水施設の耐震化率 = (耐震対策の施された浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100

【説明】 浄水施設 (8施設) の耐震化率
 【目標】 九頭竜浄水場の更新等を進め、R10年度末時点で91.5%を目指す

【進捗状況と達成度評価】

H30	R2	R3	R4	R5
8.6	8.6	8.6	8.6	8.6



評価	コメント
△	・ビジョン策定時の計画と比較し、九頭竜浄水場の更新事業が遅延しており、目標達成は難しい



第3章 施策と具体的な取組 (P12～P33)

施策体系は現行ビジョンを踏襲するものの、具体的な取組については、主に以下の改訂を実施した

【目標値の見直し】

指標 No	数値目標名	達成度 評価	R10目標値		策定時 目標値 との差	コメント
			策定時	見直し		
	原水水質監視度		177	179	+2	・近年実績値が目標値を達成しているため、近年実績水準に上方修正した
	鉛製給水管率		25.2	36.2	+11	・実態調査により、残存件数が策定時から増加したため、解消ペースを見直した目標値に下方修正した
	浄水施設の耐震化率		91.5	9.1	-82.4	・九頭竜浄水施設更新が、民間活力導入の検討のため、策定時より遅れるため、目標値を下方修正した
	配水池の耐震化率	○	57.5	58.6	+1.1	・「原目配水池更新事業」の令和6年度時点での進捗状況に鑑みて、目標値を上方修正した
	水道施設見学者割合	○	46	60	+14	・近年実績値が目標値を達成しているため、近年実績水準に上方修正した

【災害対応に関する取組の追加】

R6 能登半島地震など大規模化・頻発化する災害を受けて以下を実施

- 「施策 14 停電対策の強化」に「移動電源車の導入」を追加
 浄水場の非常用電源のほか、災害時の復旧作業用電源に応用する
- 「施策 15 危機対応能力の強化」に「給水車の運転職員の確保」を追加
 局内職員への準中型運転免許取得経費の助成制度を創設
- 「施策 16 応急給水体制の強化」に「給水コンテナの追加確保」を追加
 給水コンテナ (容量 1 トン) を 10 基追加確保する

第4章 投資・財政計画 (P34～P38)

- 投資計画
- ・物価高騰や主要事業の延伸を受け、ビジョン策定時の投資額「238億円」 現時点(R6見直し時)の投資額「269億円」となる見込みである
 - ・ビジョン計画期間以後も、九頭竜浄水施設の更新をはじめ、大型投資が続く見込みである

財政計画

1 収益的収支 (億円：税抜) 水道事業ビジョン2020 の計画期間(R2～R10)

区分		年度	R2 決算	R3 決算	R4 決算	R5 決算	R6 予算	R7 計画	R8 計画	R9 計画	R10 計画	R11 計画
収益的 収支	収入	料金収入	42.2	41.5	40.9	40.0	39.7	38.9	38.5	38.1	37.7	37.5
		長期前受金戻入	2.6	2.6	2.8	2.6	2.6	2.6	2.7	2.8	2.9	2.9
		その他	4.7	5.1	5.4	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
		計	49.5	49.2	49.1	47.9	47.6	46.9	46.5	46.2	45.9	45.6
	支出	人件費	5.2	5.0	5.0	5.1	5.0	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1
		経費	14.6	15.7	15.6	17.4	19.9	17.7	17.7	17.7	18.3	18.3
		減価償却費	15.7	15.8	16.2	16.3	16.8	17.6	18.0	18.8	19.1	20.0
		資産減耗費	0.9	0.4	0.8	1.2	0.4	0.5	0.5	0.9	4.5	2.7
		支払利息	2.3	2.0	1.8	1.7	1.6	1.6	1.7	1.8	2.0	2.2
		その他	1.1	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
		計	39.8	39.2	39.6	42.0	44.2	42.9	43.3	44.6	49.3	48.6
	当年度純損益 (ビジョン策定時)		9.7 (9.7)	9.9 (7.9)	9.5 (8.3)	5.8 (7.6)	3.4 (6.5)	3.9 (2.9)	3.2 (3.5)	1.6 (1.8)	3.5 (1.8)	2.9 (2.3)

料金収入の減少や減価償却費等の費用の増加により、R10には純損失が発生する見込み

2 資本的収支 (億円：税込) 水道事業ビジョン2020 の計画期間(R2～R10)

区分		年度	R2 決算	R3 決算	R4 決算	R5 決算	R6 予算	R7 計画	R8 計画	R9 計画	R10 計画	R11 計画
資本的 収支	収入	企業債	2.0	9.0	6.0	7.2	12.1	11.6	15.7	16.0	15.1	15.5
		その他	2.5	1.6	2.3	3.0	3.4	6.9	6.3	6.1	6.7	3.5
		計	4.5	10.6	8.3	10.1	15.5	18.5	22.0	22.1	21.8	19.0
	支出	建設改良費	16.5	25.2	19.2	28.1	28.1	31.7	39.6	40.7	41.3	41.7
		企業債償還金	10.2	10.4	10.4	10.6	10.0	9.4	8.9	8.7	7.4	6.8
		計	26.7	35.7	29.6	38.7	38.1	41.0	48.4	49.4	48.7	48.5
		資本的収支差額 (ビジョン策定時)	22.2 (23.8)	25.0 (22.3)	21.3 (25.5)	28.5 (28.1)	22.7 (27.0)	22.5 (33.6)	26.4 (29.4)	27.3 (27.6)	26.9 (25.1)	29.5 (27.2)
	留保資金残高 (ビジョン策定時)		34.9 (32.4)	35.3 (33.7)	39.2 (32.7)	32.9 (29.0)	30.5 (25.6)	29.7 (15.6)	25.2 (8.6)	19.3 (2.8)	10.2 (3.2)	2.1 (10.6)
	企業債残高		130.4	128.9	124.5	121.1	123.2	125.5	132.3	139.6	147.3	156.0

事業費の増加に伴い、留保資金残高は減少し、R10までは10億円(安定的な経営運営の水準)を保つものの、R11にはマイナスとなり、計画どおりに事業を実施できなくなる見込みである

第5章 まとめ (P39)

計画期間の終期までには料金水準の検討が必要となる見込みである

次の100年も安全安心な水道サービスを提供できるよう、今後も施設の強靱化や経営基盤の強化に取り組んでいく
水道事業の取組や厳しい経営環境など、市民に積極的な情報発信を行うことで、水道事業への理解を深めてもらう

